

### **第3回原生生物学・共生生物学談話会のご案内**

日時:3月14日(木)15:30~17:30

場所:TMGH 1F 大セミナー室 (予定)

世話人: 永宗喜三郎 (国立感染症研究所)

昨年度に引き続き、「原生生物学・共生生物学談話会」を企画しました。寄生虫学、特に原虫にとって、一番身近な他分野は自由生活性の原生動物であり、また、寄生現象にとってのそれは共生現象なのではないでしょうか。原生生物も共生現象も本来、寄生性原虫や寄生現象を内包している言葉であると考えます。本サテライトをきっかけとして様々な他分野交流や共同研究が生まれれば世話人としてうれしく思います。皆様には奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

#### **海産貝類に寄生するパーキンサス属原虫の生物学**

梅田 剛佑 博士 (帯広畜産大学 原虫病研究センター 生体防御学分野)

パーキンサス属原虫は海産貝類に寄生する病原体であり、国内では特にアサリの資源量減少の原因の一つとして問題となっている。本属原虫は国内でも複数種が存在し、また宿主範囲も広い。しかし、寄生虫の種による病原性の違いや、宿主種間での感受性の違いはこれまで注目されてこなかった。私たちはこのような寄生虫側・宿主側の種間の違いも手掛かりとしながら、本属原虫が宿主生体防御機構に対抗するメカニズムや、野外で感染を拡大する経路の解明を目指している。本発表ではパーキンサス属原虫の生物学について概説したのち、私たちのこれまでの研究成果と今後の展望を紹介する。

#### **強弱の異なる生物間相互作用の解明へ向けた取り組み**

木原 久美子 博士 (熊本高等専門学校 生物化学システム工学科)

生き物は生き物同士で何らかの相互作用を保持しているという点を考慮すれば、全ての生き物は広義の意味で共生していると言っても過言ではない。その相互作用の強さには緩やかなものから緊密なものまで様々な段階が存在しており、生物は相互作用を駆動力として自身の特徴を鋭敏化させたり鈍化させたりしながら進化し生物多様性を産み出しているのかもしれない。ここでは、シロアリ共生系などを例に、強さの異なる生物間相互作用を、どのようにして解明しようとしているのかについて、いくつかの取り組みを紹介する。

#### **【お問い合わせ先】**

永宗喜三郎 (国立感染症研究所)

email: nagamune "a" niid.go.jp 電話:03-5285-1111(内 2221)

Please exchange "a" to @.